

# 大田高校 人権だより

令和2年12月23日発行

コロナ禍の中、無事大高祭も実施できて、教室にも活気が戻ってきた2学期でした。各学年人権教育HRの様子をお伝えします。

## <2学期の人権・同和教育HR活動報告>

### 10月8日(木) 3年生(結婚差別に学ぶ)

島根県で起こった結婚差別の事例学習を通じて、このような差別が起こった原因と、差別のない社会を目指すために私たちに必要なことは何かを考えました。

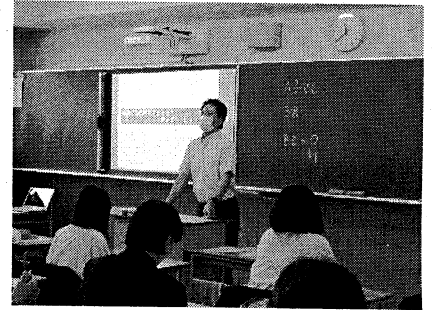
(生徒の感想より) 出身地で差別をするという感覚が全くわかりません。その人と出身地で行われていたことに何の関係もないのに、なぜ差別につながるのでしょうか。そんな差別が今もまだあるということにとっても驚きました。\*\*\* 今日の授業で、私はまだ部落に関する知識が足りないと感じました。部落に関する知識がない人は今回の例のように思い込みで差別知識を吹き込んだり、意志を貫き通せなかったりしてしまうと思います。偏見をなくし、情報をよく知って流されないようにしたいです。\*\*\* 今回の授業を受けて、行動を起こすことの大切さを改めて感じた。「どうせだめだから」ではなく、「自分には何ができるか」という考えを持てば色々なことが見えてくると思う。自分は、機会があれば差別を受けた人と話してみたいと思った。自分もだれかの力になりたいと強く感じた。\*\*\* 差別は昔よりは少なくなったけれど、今でも日本や外国で周りから見えづらい形で残っていて、苦しんでいる人がいるんだと改めて問題視して考えることができました。

### 10月15日(木) 3年生対象人権講演会

鳥取県から下吉真二さまに来ていただき、最近の結婚差別の事例や、実際に下吉さんが対応されたやりとりから、差別意識はまだ残っていることを知りました。特にインターネット上での差別については詳しくお話していただき、その中で、差別に気づき、声を上げることが重要であることを熱く語っていただきました。

(生徒の感想より) 前回授業で学んだ時よりも、より深く部落差別の実態や部落差別に立ち向かう人々の行動を知ることができて勉強になりました。個人情報承諾なしに勝手にネット上や本に晒すのは人権侵害につながるし、それは一部の人だけでなく私たち全員に関わることだと知って、決して他人事ではないと思いました。もし今後差別問題などに関わった時のために、正しい知識や情報を蓄えておきたいです。\*\*\* 今回の講演で特に印象に残ったのは、「部落問題は、正しい知識、努力、勇気、根気があれば絶対乗り越えられる」ということです。\*\*\* 差別というのは、悪い場面ばかり切り取って、自分が優れている、相手は劣っている、といったことから始まると思います。い

つか差別のない素敵な社会になればいいなと思いました。\*\*\* 現在では、インターネットの利便性を利用した差別があることに衝撃を覚えたのと同時に、怒りを感じました。僕自身は同和地区に関して差別意識を持っていないのでこれからも誤った情報などに騙されず生きていきたいです。また、機会があれば差別をなくしていく運動に参加してみたいです。

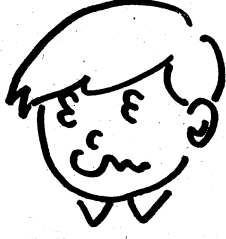

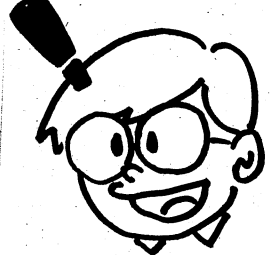


(3年生の様子)

## 人権教育における「寝た子を起こすな」論争について

人権問題について話し合う中で、「なぜわざわざ昔の差別のことを学習しなければならないのか」「差別について学習することで、かえって差別を生むのでは」という意見があります。しかし、差別について何も知らない人に間違ったイメージを与えたらどうなるでしょう。(例:『〇〇の恐怖!』という動画を観たあと、〇〇へのイメージはどのようなものになるでしょうか。)

『コロナ差別』など、人権課題は次々に現れます。私たちが積極的に新しい情報を手に入れて調整(矯正)しなければ、差別を見抜く力は育たないし続かないと思います。そのためにも、まず「差別を見抜く目」を養いましょう。

		
無知・無理解・無関心	偏見・知識不足のバイアス	正しい知識と行動

**新型コロナウイルスに感染した方やその関係者に対する誹謗中傷、うわさ話などはやめましょう。人権に配慮した冷静な行動が感染の早期発見や接触者の接触者の把握につながり、感染防止につながります。(県 HP より)**

**11月5日(木) 1年生(SNS上のコミュニケーション)**

SNS上のトラブル事例を通じて、「友達の悪口を言いたくなる時の自分の心情」にスポットを当て、自分の心を冷静に分析し、言葉を選んで表現することを学びました。また、悪口に便乗せず、冷静に対応することについても考えました。

(生徒の感想から)自分が正しいとばかり思って相手の悪口を言っていたため、その人の周りにはいつの間にか誰もいなくなってしまうました。私は、『どうしてそんなに悪口ばかり言うの?相手のいいところもたくさんあるでしょ?』と聞いてみたらよかったですと思いました。\*\*\* 悪口を言うことはいけなことだと分かっていても、つい口に出してしまうことがある。クマ子とウサ子のやりとりを見て、ウサ子の悪口に同意しなかったクマ子はすごいと思った。\*\*\* 一番印象に残ったのは、悪口を聞かされた場合、それに同意するのではなく、相手の心情について気にかけることが大切だということです。悪口を言うということは心にゆとりがないからだと思うので、「何かあった?」と心配することで話題を切り替えることができ、その人の価値を下げることもなくなるので、これからそんな場面には実践してみたいです。\*\*\*

自分もよくイライラして悪口を言う時が多々あったけど、今日いろんな人たちの意見を聞いて、ストレスがあったとしても、すぐに言うのではなく心の中にとどめておいたり、もしくはオブラートに包んで言うなど、自分の気を晴らしたり八つ当たりするのではなく、相手のことを考えることを大事にしていけたらいいなと思いました。



(1年生の様子)

**11月12日(木) 2年生(解放令に学ぶ)**

ここでは、「解放令」を題材に、「なぜ一般の人々が被差別部落の人々を攻撃したのか」、資料を読みながら差別する側の人々の心理を考えました。そしてその背景に、「不安や不満を弱者にぶつけて解消したり、優越感にひたって安心したい」という心理があったことを学びました。ワークシートの中で、生徒達はこの心理状態を「自分ごと」として考え、『テストで思うように点が取れないときイライラをぶつけた』『不満があると兄弟に八つ当たりしていた』『不平不満はあるけど、誰にも話さず思いつめるのは良くない。人を傷つけてはいけないが、話をして心が落ち着けばいいのではないか』などと、当時の気持ちや状態をふり返りながら学習をすすめました。

(生徒の感想から)たとえ不満や怒りを抱えていたとしても、他人への攻撃で発散することは決してしないこと。そしてそのような人の相談に乗り、解決に向けての手助けをすることが必要だと思う。\*\*\* 今身近に差別はないけれど、どこかでまだ差別というものが残っていると思うから、誰に対しても平等にするようにしたいと思いました。自分の何気ない一言によって誰かを傷つけたりしないように考えて発言した行動しようと思いました。\*\*\* 自分だけが幸せならよいと思わずに、自分のことも他人のことも両方の事を考えて行動しなければいけないと思った。\*\*\* 自分の怒りや不満などの負の気持ちを人に押しつけるのではなく、悩みを聞いてもらうなどして一緒に考えていけばいいなと思いました。差別はいろんな場面でいまだに目にするし、差別的なことを言う人はたくさんいるけど、傷つく人は必ずいるのだということを知ってほしいです。\*\*\* 必ず、逆の立場のことを考えて行動できるようにしたい。イラついたりムカついたりすると周りが見えなくなってしまうので、冷静になって怒りの気持ちを和らげたりすることが必要になってくると思う。



(2年生の様子)

**3学期の人権・同和教育関連行事**

**1月28日(木) 2年生人権・同和教育HR活動**

発行 令和2年12月23日  
大田高校 図書・人権・同和教育部